



2022年6月16日

株式会社ビーアンドピー  
代表取締役社長執行役員 和田山 朋弥

## 2022年10月期 第2四半期 決算発表 質疑応答集

2022年6月9日(木)に発表いたしました2022年10月期 第2四半期の決算について、機関投資家・アナリストとの1on1ミーティングや、株主の皆様より頂戴したご質問を回答と合わせて下記のとおり公開いたします。

なお、ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆・修正を行っております。

**質問1：第2四半期まで業績は順調とのことですが、通期目標達成の確度はいかがでしょうか。**

回答：第2四半期までの業績は業績予想通りに順調に進捗しております。新型コロナウイルス感染症やウクライナ問題といった不安定な国際情勢等、国内の経済状況ははまだ先行きが不透明な状況が続いておりますが、状況に大きな変化がなければ業績予想の達成は可能であると考えており、業績予想の上振れを目指して事業活動を行ってまいります。

**質問2：原材料の仕入れが難しくなっている会社が増えていますが、御社への影響はいかがでしょうか。**

回答：当社において原材料の調達が困難になっている状況にはなく、現時点では経営に大きな影響は発生しておりません。一方、半導体の不足による生産設備の納期遅れに伴って、今後設備投資の実施時期等に影響が生じる可能性があります。なお、原材料の不足により国内企業の新製品販売時期に遅れが生じた場合には、販売促進用広告の案件の受注時期が遅れる可能性も考えられます。

**質問3：地方拠点の成果状況について教えてください。**

回答：名古屋・福岡両営業所につきましては、これまで新型コロナウイルス感染症の影響で十分な営業活動ができておりませんでした。経済の回復基調に合わせて新規顧客獲得活動を積極的に展開した結果、第2四半期累計期間の売上高については、名古屋営業所は前年同期比159.4%増加、福岡営業所は前年同期比83.3%増加となり、それぞれ順調に売上を伸ばしております。

**質問4：M&Aについて、どのような役割を担う会社を選定していますか。また、進捗についても教えてください。**

回答：当社が行っているインクジェットプリント、デジタルサイネージ、デジタルプロモーションの3つの事業との相乗効果があり、成長基盤を一層強化できる会社をM&Aの候補先として選定しております。M&Aに関しては社内でプロジェクトチームを編成し、専門会社に案件の調査を依頼する等、積極的に情報収集を行っております。

**質問5：御社は前期に首都圏エリアの生産拠点を統合されましたが、その効果について教えてください。**

回答：昨年8月に首都圏エリアの生産機能を横浜に統合し、業界でも国内最大規模となる横浜ファクトリーを稼働させました。これにより、大規模生産体制を構築し、かつ、ワンフロアで作業が完結できるようになったため、第2四半期累計の一人当たり生産高は前期比12.7%増加し、生産効率が大幅にアップしました。

以上